

# 令和4年度 保育園の自己評価

オレンジ保育園

1、保育理念・保育観		評価	評価の根拠・改善方法
1	保育士一人一人が、オレンジ保育園の保育理念・保育方針を理解している。	A	園長・主任で各種マニュアル等について勉強会を開催し全職員で共通理解を図った。
2	オレンジ保育園の保育方針を理解して保育計画が立てられている。	A	保育園の全体的計画から各年齢の年間指導計画 月案、週日案へと繋げて作成している。
3	常に保育方針や保育観を確認できるような機会を作っている。	A	園内研修等を各クラスの園児理解を行い、自園の保目標・方針と照らし合わせ振り返りを
4	一人一人の主体性を大切にした保育をしている。	A	各クラスの発達の特性を理解し、園児各々の発達理解を共通理解し対応の変化をつけた
5	保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共感している。	B	個人面談を行い、家庭と園のコミュニケーションを図り、子育ての悩みや喜びを共有するようにした。また、3年ぶりに運動会・発表会を開催し発達の喜びを共有した
2、保育計画・指導計画			
1	保育方針の、ねらい及び内容が達成できるような全体的な計画や保育計画を立てている	A	前年度の反省を元に全体的な計画を見直し、乳児、3歳児未満児、3歳児以上の年間保育計画を立てている
2	保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して年間計画、月案、週案を立てている	A	当初の計画だけではなく実際の子どもの姿に合わせて保育計画を基に、年間指導計画、月案、週案と保育内容を落とし込み計画を立てている。
3	3歳未満児は、現在の姿を理解し、見通しをもって一人一人に応じた保育計画を立てている。	A	個別計画を立案し、一人一人の発達に合わせた個別の年間計画を立てている。
4	配慮の必要な子には、その子に応じた保育計画を立てている。	A	個別支援計画を立て保護者と共通理解の基保育を進め、年間2回の巡回相談も行っている。また、モニタリングの実施
3、食育			
1	食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている。	A	食育年間計画を立てて、地元や旬の食材の栽培や収穫をし調理したり、季節に合った食育体験が出来るようにしている。
2	調理士、保育士等が連携し、会議等で意見を交わし合いながらより良い給食になるよう努めている。	A	毎月1回、給食会議を開き、各年齢の給食状況や嗜好調査、食育活動の様子など話し合っている
3	出来るだけ地元の食材や旬の食材を取り入れ、様々な食材を味わえるようにしている。	A	地元の青果店から食材を取り入れ、珍しい食材等は展示し食への興味、関心が持てるよう
4	給食やおやつは手作りをしている。	A	自園調理を行い、離乳食、アレルギー食へも対応し毎日手作りの食事、おやつを提供している
4、職員構成・役割分担・研修			
1	職員の仕事や役割が明確であり、連携を取って円滑な園経営が出来ている。	B	職員一人一人の役割や仕事内容を表にし、協力し合って業務に当たるようにしている。
2	危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が出来ている。	A	全国的な保育事故の事例を元に、危機管理についての意識を持ち、マニュアルに照らし合わせ必要があれば変更を行っている。
3	職員が割り当てられた業務分担を把握し、園の保育や内容を深めるために、それぞれが活発に活動している	A	役割分担された業務を行い、円全体で取り組めるよう共有している。
4	園内研修と園外研修の計画を立てて実行している。	B	園の課題、個人の課題に合わせて取り組んでいるが、研修に参加できない職員がいた。
5	施設整備や遊具等の安全点検を行っている。	A	毎日の早番、遅番のチェックや週に1回日程を決め遊具等の安全点検を行っている。
5、保護者支援			
1	保護者と良好な関係をつくらうとしている。	C	送迎時に、挨拶・声かけを行いコミュニケーションを図れるようにしているが、コロナ禍に十分
2	園の保育内容や子どもの姿が分かるような発信をしている。	A	クラスだよりやブログ、玄関先のホワイトボードを活用し掲示、お知らせや園での様子を掲示している
3	保護者の状況を理解し、個人情報への漏洩に気をつけている。	A	各家庭の状況を把握し、情報共有の制限をしたり、周知したり臨機応変な対応を行っている
4	子育てのパートナーとして、保護者の子育ての大変さや悩みを理解している。	B	お便り帳や送迎時に口頭で、園や家庭での様子を話し合い、成長を共感するようにしている。
6、子育て支援			

1	地域に開かれた、日々子育てをしている親子を受け入れている。	C	コロナ禍もあり、思うように取り組めなかった。
2	地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている。	C	コロナ禍もあり、思うように取り組めなかった。
3	子どもの心身の発達や育児不安について、気軽に相談できるようにしている。	B	相談受付窓口を設けている。
4	園生活の子どもの様子を地域にも発信している。	B	ホームページを開設し、様子を配信している

## 7、小学校や地域社会との連携

1	定期的に小学校と交流を行っている。	B	小学校との交流は少ないが法人内の学童さんの様子を感じるなど交流を行っている。
2	定期的に小学校やこども園との会議や職員交流を行っている。	B	行政主催の研修会で情報交換会を行っている。
3	高齢者施設との交流を深め、高齢者の方を敬う気持ちを育てている。	B	高齢者施設を訪問することはできなかったが、敬う気持ちが持てるように保育している。

A:よくできた B:できた C:一部改善が必要 D:改善しなければならない

## 園全体の評価

新型コロナウイルスの状況を見て、3年ぶりに運動会・発表会といった大きな行事を開催することができ、保護者と共に園児の成長を共有することができた。保護者も参加できること、他クラスと合同でできることに喜びを感じる保護者が多く園の方針・目標の理解へと通じることに繋がった。特に運動会では保護者の演目を組み入れ、一緒に行事を盛り上げてもらえたことは非常に喜ばしく思える。その反面、祖父母の参加ができなかったことや地域との交流が未だできなかったことが次年度以降への反省としてあげられる。

指導案の作成、計画の立案時に職員間での話し合いの場を多く持つようにし、保育の情報共有することでクラス運営がスムーズに運び日々の保育でこども達が主体の保育へとつなげることができた。日々取り組んでいる、ドキュメンテーションなどを通じ、行事の演目等を決定することによって、無理なく行事への取り組みができ、年間を通して行事の保育の繋がり・行事の繋がりを実感できた1年であった。

次年度以降、制約が徐々に緩和されていくと、より地域の交流や小学校への接続を意識した取り組みを積極的に取り組むかを課題に日々の保育を大切に努めていきたい。